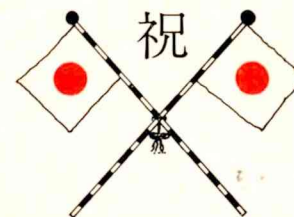




躍進!! 大根占町



町制施行40周年

1973-10

鹿児島県大根占町

発行人 町長坂元左武郎

編集 総務課文書広報係

大根占町制施行
40周年記念特集号

印刷

鹿屋市上谷町4の6

KK 綜合印刷

TEL(3)2093

より豊かな明るい

大根占町建設の契機に

町 長 坂 元 左武郎

昭和八年八月一日、町制が施行されたときは大変な喜びようだったことが伺われます。

郷社河上神社で奉告祭が行われ

多年の県

案であつ

た大根占

港港湾修

築工事も

城ヶ崎の



二本松附近の沖合に「礎石」を沈下して起工式を行い、町民こぞつて祝い、町発展の第一歩をふみだしたとあります。

それから四十年、歴代の町長、議会議員、先輩諸氏の御尽力、町民各位の協力一致によって今日の発展をみる事が出来ましたことは誠に喜びにたえません。

この四十年を顧みますと、町制初期十年は旧町村制の下に港湾修築に重点がおかれておりますが、大東亜戦争に突入するに到り国家の総力を戦争遂行に結集した時期であり、ついで敗戦の苦しみにあえぎ食糧難と斗い荒廃した郷土の再建と占領下における新しい自治制度の下に学制改革等も行われようやく民心安定のきざしがみえたときに二十周年を祝っております。

これを契機として海岸堤の構築港湾の修築、六・三制教育による学校施設の整備、食糧の増産道路の開発に重点が指向され更に経済の高度成長政策に伴い過疎化現象をきたすにいたり以後農業基盤の整備（水田圃場整備、構造改善事

業、農道の開発）農業の近代化と換金作目の振興、交通基盤の整備、教育施設の整備と教育の振興環境衛生の整備、福祉行政の推進に主眼をおいてまいっております。

このときに町制四十周年を迎えることは誠に意義深いものと感じます。過疎化現象はその防止に努力はいたすもののなご進展が予想され農林水産業の後継者は減少し老令婦女子化の傾向になることは明らかであります。これらの現実をふまへて四十周年を契機に大きく転換すべきであると思います。したがって農村水産業の発展を基礎にさらに交通基盤の整備を図ると共に中学校の統合、社会教育の振興、環境衛生の整備福祉行政の推進に努めもって町民福祉の向上を図りみなさんと共に「より豊かな明るい大根占町」建設のために献身してまいりたいと存じます。四十周年を皆さんと共に祝い、そしてさらに前進しようではありませんか

町制四十周年を迎えて

町議会議長 川 辺 盛 康

『民心を更新し潑刺たる活動の下に、村治の発展を期し、一面商取引上の信用観念を濃厚ならしめる為、村を町となさんとす。』と



して本町が昭和八年八月一日を期して、町制を実施し

て以来早くも四十年の星霜を経ました。この提案理由の意味するもの、当時の世相を反映しており、かつ躍進への期待に胸ふくらませた気持が、分るような気がします。

町制実施当時の本町人口は一一、〇一〇人となっており、その後昭和三十一年の一四九八〇人をピークとして、減少方向に向い、奇しくも、四十年経過した今日の人口と、ほとんど変わらないのであります。人口の面から見る限りその間

何の変哲もなかったかに見えますが、誠に激動の四十年であったと思います。

四十年の歳月は、悠久の流れの中から見ると短いものです。しかしながら人間生活にとつてはかなりの年数である事を感じます。

昭和十三年の大水害、支那事変に端を発し終戦まで幾多の青壮年が、国のため命をかけて戦いました。そして我国歴史上かつてなかった敗戦の苦しみを味わいました。

昭和二十二年地方自治法が施行され、地方自治の仕組みも大巾に改正され、従来議会で選任していた町長も町民直接の公選制となり、議員の中から選任されるようになり、執行機関と議決機関がはっきり区別されるようになりました。外に教育制度の大改革による新制中学校の誕生、町立高等学校の実

現、産業面では畑作地帯、水田地帯の圃場整備港湾始め道路網の整備、上水道及び、環境整備等、各方面に亘って、大きな変革をもたらしております。

しかしながら工業立国を目ざす国の政策により、ここ十年來都市への人口集中が始まり、当然本町もそのあおりを食って、県内ほとんどの町村と同じく、過疎の町となりました。

この点については議会、執行部共に対策に苦慮している処であります。地理的条件等もあって、対策も思うようにまかせません。

現在人口流出を鈍化しています。が、議会としましては、この四十周年を機として、何等かの案を出せないものかと、考慮中であります。時流れ人が変わっても、町政が淀む事は許されません。わたくしどもは少しでもより住みよい町として、発展するようこの上ながら努力して、まいりたいと思っておりますので、この記念すべき年に当り町民みなさんのより一層の御指導御鞭撻を御願い申し上げます。

町政40年のあゆみ

昭和八年八月一日町制が施行されて四十年、この間昭和十三年の大水害、大東亜戦争、終戦、新憲法発布、あらゆる物資、食糧の欠乏、そしてようやく昭和三十年頃から建設事業、開発事業に着手、昭和三十六年には国民の福祉向上のため提出制国民年金、国民健康保険事業の開始と今日まで幾多の変遷を経て現在に至りました。

そこで、この四十年間を行政の各部門ごとに年代を追って、みなさんと共にふりかえってみましょう。

鹿児島銀行大根占出張所、鹿児島無尽会社大根占出張所、大根占、神川、池田、桜原に信用組合等があった。

四、衛生

医師七人、獣医二人、産婆三人

五、村内官公署

大根占警察署、大根占営林署、

鹿屋区裁判所大根占出張所、たばこ元売捌所、大根占郵便局、神川郵便局。

六、学校

大根占尋常高等小学校

児童数一、〇四七人

神川尋常高等小学校

児童数 六〇五人

宿利原尋常高等小学校

児童数 三〇三人

池田尋常高等小学校

児童数 三三六人

大根占中等公民学校

生徒数 三八一人

七、職業別戸数

商業三二〇戸、工業一九一戸、農業一三〇八戸、水産業一二二戸、

交通業一二三戸、公務自由業一三五戸、その他三一戸

八、各種団体

養蚕組合、園芸組合、煙草組合、

漁業組合、産馬組合支所、保安組

合、竹林組合、茶業組合、荷馬車

組合、木炭組合、出荷組合、養鶏

組合、工業組合、尚武会、商工会、

乾蘭組合。

役場の池田支所開設、職員三名を置く。

昭三二 三ヶ町村合併を知事勧告

役場の池田支所閉す。

昭三三 営農相談室を設置。

昭三八 町制施行三十周年記念式典。

交通安全町宣言。広報車を購入。

昭三九 宿利原簡易郵便局開局。

ミュージックサイレンを役場に

新設、時刻の告知と広報に利用。

町制当時の状況

町制が施行された昭和八年八月一日をふりかえってみますと、河上神社に役場職員全員が参列し奉告祭が行なわれました。そして多年の懸案であった大根占港湾修築工事の起工式が城ヶ崎の二本松で落司平の公園建設の起工式も現地で行なわれ、将来の発展を祈念しました。

町の概況

一、人口一、〇一〇人

戸数 二、二二〇戸

二、交通通信

湾内航路の汽船日に四回山川指宿、鹿児島方面行きが寄港。

定期自動車日に数回鹿屋、垂水、田代、佐多等へ往来。

通信機関大根占郵便局及び神川郵便局に電信電話設備が完備していた。

三、金融機関

鹿児島勤儉銀行大根占代理店、

行政

昭八 町制施行。

昭二二 町長公選制となる。

昭二五 町報発行。

昭二八 町制施行二十周年記念行事を実施。

大根占小唄ができる。

昭二九 三ヶ町村（根占町、田代村と）合併案を県が提示。

昭三〇 議員定数を二十名に（六人減）

昭四〇 故前田郁氏の準町葬執行
故宮里軍吉氏の準町葬執行。
神川新町部落が誕生（下、浜部落が合併）。

昭四二 塩屋一、二区部落が合併部落に有線放送設置を呼びかける。

昭四三 皆倉上、下部落が合併。

昭四四 町章、町民憲章、町民歌ができる。

議員定数を十八名に（二人減）。

昭四五 故浜崎節氏の準町葬執行
過疎地域に指定さる。

町総合振興計画ができる。

昭四六 大隅広域市町村圏設定協議会が発足。

マイクロバスを購入、三〇万円。大根占町誌を発行。

昭四八 県町村土地開発公社が設立され、本町に支社を置く。



町議会のもよう

福祉・衛生

昭二六 法輪保育園が開園。

昭三六 拠出制国民年金、国民健康保険事業開始。

昭三七 落司平に慰霊塔が完成。

昭四〇 養護老人ホーム大根占錦江園を開設、定員五十名、事業費一、三四九万円。

ごみ焼却場が完成、処理能力一日二t、事業費一三〇万円。



老人ホーム大根占錦江園

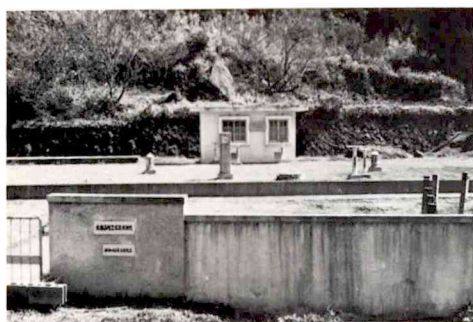
昭四一 宿利原診療所を開設、週二回診療を実施。

昭四二 ごみ回収車を購入、一五〇万円。

昭四三 上水道事業に着手。

昭四三 上水道事業完成、同年給水開始、給水戸数八七六戸、事業費六、九〇〇万円。

大根占、神川地区で集団赤痢発生。



上水道水源池

昭四六 老令年金（拠出制国民年金分）の支給始まる。

めばえ保育園が開園。

昭四七 大根占町田代町衛生処理組合設立（ごみの処理）。

昭四八 南大隅衛生処理組合設立（大根占、根占、田代、佐多の四ヶ町が協同して、し尿の処理を行うもの）。

児童手当支給開始。

昭四八 大根占町田代町衛生処理組合ごみ焼却場が完成、処理能力一三t、事業費四、六〇〇万円。

建設

昭八 大根占港修築工事着手。（救荒旱害対策事業）。

昭一一 都市計画法による都市計画区域に指定さる。

昭一二 大根占港修築工事県営となる。

昭二三 大根占港修築事業再開。

昭二六 県道（現国道二六九号線）大根占地内の改良工事始まる。

昭二七 神之浜海岸堤災害復旧工事着手。

昭二八 塩屋海岸堤災害復旧工事着手。

中央線県道となる。

昭二九 山之口海岸堤災害復旧工事着手。

奥地林道岩元線着手。

昭三〇 大根占港修築事業完了。

昭三一 町道砂利散布用に二t積三輪車を購入、六二万円。

昭三二 神川橋架替工事完成。

昭三三 県道（現国道二六九号線）の市街地内改良工事始まる。大根占海岸海岸保全区域に指定され、海岸堤防防災工事県営となる。

町道久持線県道昇格（現神川、内之浦線）
町道半下石線県道昇格（現池田根占線）

昭三四 県道（現国道二六九号線）の改良工事大橋まで進む。

大根占港の修築事業再開。

昭三五 山之口海岸堤、鳥浜海岸堤災害復旧工事着手。

鳥浜海岸堤防災工事着手。

昭三六 半下石橋完成（県営）

昭三八 厚ヶ瀬橋完成。

役場庁舎改築。

神川海岸堤工事着手。

昭三九 国道山之口附近舗装工事着手。運動試験場完成（松崎）

面積七〇アール、工事費六〇万円、原付自転車、耕運機の試験に使用。

昭四〇 国道二六九号線町内舗装完了。

県道鹿屋佐多線（現国道）国道昇格。

（大尾から神川中原へ通ずる道路）

県道鹿屋・吾平・佐多線（中央線）主要地方道昇格

昭四一 林道大谷線完通、延長一・二〇一メートル、三ヶ年継続事業で実施した。

町議会議事堂新築、木造、面積一九一平方メートル。

昭四二 農免農道坂之上線着手、城元坂之上から神川城まで。

林道中桜原線着手（神川中原から桜原へ通ずる道路）。

昭四三 都市計画区域が区域変更さる。

町道維持補修用グレーダー購入、六二万円。

昭四四 都市計画街路佐多街道線新設事業開始、数年間は用地買収を主に。

町道舗装役場前から始まる。林道河内線（神川大滝までの道路）完成、延長一、〇〇六メートル、事業費六五六万円。

林道中桜原線完成（神川中原から桜原へ通ずる道路）

延長二、三五五メートル、事業費一、二六九万円。

昭四五 松尾線改良工事に着工（神川上の有村の上）、延長七四〇メートル、事業費一、二三〇万円。

昭四六 馬場中原橋完成、延長四九・一メートル、事業費一、二七二万円。

二ヶ年継続事業で施行。農道神川線改良完成（神川から神川中原へ通ずる道路）、延長四、六九〇メートル、事業費三、七六〇万円、三ヶ年継続事業で施行。県営農免農道坂之上線完成、延長五、八三〇メートル、事業費七、〇〇〇万円、五ヶ年継続事業で施行。



馬場中原橋

昭四七 農道池山線（瀬戸山から池山地区へ通ずる道路）完成、延長一、六〇〇メートル、事業費一、六〇〇万円。

県営過疎基幹農道桜原線整備事業着工。

昭四八 林道川床線（厚ヶ瀬線の夏迫から平床へ通ずる道路）完成、延長二、七一八メートル、事業費二、二九九万円。
国道神之川大橋が完成、延長一三〇メートル、事業費八、四〇〇万円。

産業経済

昭一八 農会と産業組合を統合し

大根占農業会を設立。

昭二二 大根占農業会解散（農業協同組合法施行により）

昭二三 大根占、神川、鳥浜三農協が設立さる。

町営製材所設置。

昭二五 紅茶を導入。
昭二六 鳥浜農協、大根占農協に吸収合併。

昭二八 早期水稻の栽培始まる。
昭二九 城元、鳥浜台地の畑地分合実施。

大根占町商工会が設立さる。
昭三〇 園芸振興会、早堀馬鈴薯の共同出荷を始める。

キヌザヤエンドウの栽培もこの頃から栽培面積が多くなった。
昭三二 両根占かんがい用水路改良事業着工。

昭三三 新農山漁村建設事業始まる。

昭三五 水稻二期作始まる。
昭三六 テン菜の栽培始まる。

昭三七 牧野改良事業実施。

昭三八 団体営ほ場整備事業（上之宇都前から）着工。
水田航空防除開始。

県有牛貸付導入事業始まる。
昭三九 葉たばこの共同育苗始まる（馬場第一、神川上、厚ヶ瀬白井）。

農村三作運動が展開される。
昭四〇 両根占地区県営ほ場整備事業着工。



区画整理された大根占水田

昭四一 大根占、神川両農業協同組合が合併。

両根占地区かんがい排水路工事完成。

地区農業気象観測所が設置さる。

池田地区農業改善事業完了。

昭四二 大尾、落河、才原、神川中原地区で養蚕が始まる。

昭四三、花ノ木に根占地区家畜市場が設置さる。

稚蚕飼育所が完成（大尾）。

昭四四 吾智網漁法人入る。

昭四五 米の生産調整始まる。

昭四六 農業振興地域に指定さる大根占漁協水揚場が完成、三〇坪、事業費四六〇万円。
城ヶ崎にアワビの稚貝を試験放流。

馬場城元水田ほ場整備事業完了
一三〇町歩。

昭四七 榎木ヶ平茶園団地が完成
昭四八 農協に予冷库、集荷場が完成。

一本桑地区たばこ団地が完成。
笹原地区にプロイラー団地が完成。

消防

昭一二 消防ポンプ自動フォードを購入、七、五〇〇円。

昭一四 消防団、警防団となる。
団長に浜崎隼人氏就任。

昭二一 団長に本釜清氏就任。

昭二二 警防団、消防団となる。

昭二七 消防会館を新築、木造二階建一部三階、工事費五〇万円。

昭三〇 大橋で大火。

昭三一 団長に河野博氏就任。

昭三二 消防ポンプ自動車いすずを購入、二二八万円。

昭三四 県消防操法大会で自動車の部二位。

昭三五 消防団員による互助会を設立。

昭三六 日本消防協会から「竿頭綬」を授与さる。

教育文化

昭三八 京町で大火。

昭三九 消防ポンプ自動車を中央と神川に配備、購入費中央一七一万円、神川一八九万円。

昭四〇 神川分団消防車庫完成、事業費六三万円。

昭四一 中央分団消防車庫新築、工事費九二万円。

消防庁から「竿頭綬」を授与する。

昭四二 日本消防協会から「表彰旗」を授与する。

昭四三 消防ポンプ自動車を池田分団に配備、購入費一六九万円。

昭四四 池田分団消防車庫新築、工事費七十七万円。

消防庁から「表彰旗」を授与する。

昭四六 消防ポンプ自動車を中央分団に配備、購入費一八七万円
栄町で火災（住家、非住家四棟を焼く。）。

宿利原分団車庫新築、工事費一四四万円。

昭四七 消防ポンプ自動車を宿利原分団に配備、購入費二二〇万円。

昭一二 大根占中等公民学校、大根占青年学校となる。

昭一六 小学校を国民学校と改称

昭二一 国民学校を再び小学校に改称。

昭二二 大根占中学校、神川中学校、大根占中学校池田分校、神川中学校宿利原分校の新制中学校を設置。

昭二三 町立大根占高等学校設立
定時制農業科、家庭科のみ。

昭二四 宿利原中学校々舎落成。

昭二五 池田中学校々舎落成。
大根占高等学校に全日制商業科を設置。

池田中学校独立。

昭二六 大根占中学校々舎落成。

昭二七 神川中学校々舎落成。

池田中学校々舎落成。
町教育委員会が発足。

教育長に丸野春樹氏就任。

昭二八 教育長に大園宗一郎氏就任。

昭二九 大根占高等学校県立に移管、南大隅高等学校大根占校舎となる。

宿利原中学校独立。

南大隅高等学校大根占校舎共用の運動場開き。

昭三一 教育長に前田友二氏就任。

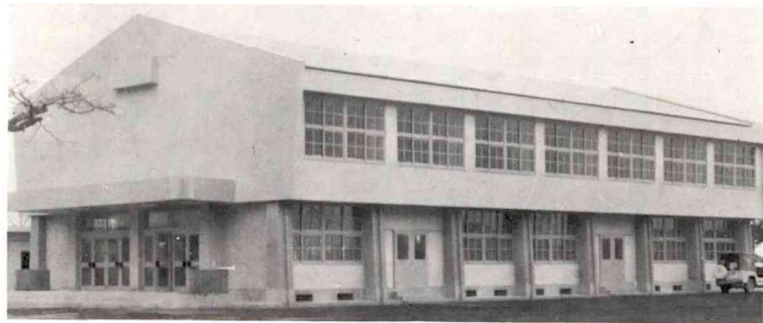
昭三二 大根占中学校講堂着工、高校と共同使用。

昭三四 大根占小学校危険校舎改築事業に着手。
山之口遺跡発掘調査始まる。

昭三五 教育長に新原兵助氏就任。
昭三六、大根占小学校危険校舎改築事業完了。

昭三六、大根占小学校危険校舎改築事業完了。

神川小学校危険校舎改築事業着工。



神小屋内運動場

昭三九 宿利原小中学校完全給食を開始。

南大隅高等学校大根占校舎が根占校舎と統合、廃校となる。

大根占小学校に宇宙科学館完成一二坪、工事費四六万円。

神川小学校危険校舎改築第一期工事完成、二二二坪、工事費一、三二九万円。

昭四〇 大根占小学校屋内運動場完成、二一九坪、事業費一、五〇〇万円。

神川小学校危険校舎改築第二期工事完成、一九四坪、工事費一、三二三万円。

自衛隊の協力で池田中学校々庭拡張工事が施行さる。拡張面積五、四〇〇平方メートル。

大根占中学校、神川小学校、神川中学校、池田中学校完全給食を開始。

昭四一 神川小学校危険校舎改築工事完了、総面積六三四坪、総事業費四、四二一万円。

池田小学校と宿利原小学校の危険校舎改築事業に着手。

宿利原中学校運動場完成、一、七三三坪、事業費三五〇万円。

昭四二 池田小学校危険校舎改築第一期工事完成、一七三坪、事業費二、二五九万円。

宿利原小学校危険校舎改築第一期工事完成、二一六坪、事業費一、七九五万円。

昭四三 大根占中学校プール完成四〇〇平方メートル、事業費四三〇万円。

昭四四 神川小学校屋内運動場完成、一三〇坪、事業費一、二〇〇万円。

池田小学校危険校舎改築事業完了、総面積四〇九坪、総事業費三、七三九万円。

宿利原小学校危険校舎改築事業完了、総面積一、二二一平方メートル、総事業費三、三二一、一九〇万円。

中学校統合推進協議会が発足。

昭三七 大根占小学校と池田小、学校完全給食を開始。

中学校統合について町長が推進協議会へ諮問。

昭四五 大根占中学校に交通安全施設を設置。

中学校統合推進協議会が町長へ中間報告。

各小学校の児童用机、椅子をスチール製へ切替開始。

昭四六 中学校統合推進協議会試案をまとめる。

同時に部落座談会を開く。

大根占中学校に教育機器（オートトレーナー）を県が貸与。

教育長に税所篤美氏就任。

昭四七 中学校統合推進協議会、

町長へ中学校統合について答申大根占小学校のプール完成、一〇〇平方メートル、事業費二二〇万円。

神川小学校のプール完成、四〇〇平方メートル、総事業費七七〇万円。

昭四八 宿利原小学校屋内運動場完成、一三〇坪、事業費一、八七〇万円。

池田小学校屋内運動場完成、一三〇坪、事業費一、七五九万円。

宿利原小学校県中学総合体育大会で男子軟式庭球優勝。

中学校統合実施案を策定五十一年度実質統合を目的に部落座談会を開く。

災害

昭一三 大風水害で大被害、死者

一九人、行方不明一五人、重傷二五人、住家流失全壊七六戸。

昭二六 ルース台風襲来、海岸線一帯大被害を受ける。

昭三〇 台風で大被害、風速五三メートル、雨量三五〇ミリ、全半壊四〇戸。

昭三四 台風襲来、高潮のため山ノ口海岸堤四〇〇メートル、長谷国道九〇メートルが決壊流失鳥浜海岸では住家まで潮が上る。



流木で埋った大根占海岸（昭和13年大風水害）

昭三九 台風襲来、風速三三メー

トル、連続雨量四六八ミリ、最低気圧九七一ミリバール、豪雨のため鳥浜で山くずれ（水田九〇アール、畑、山林七〇アールが埋没）。

台風襲来、上陸し大被害、最低気圧九五・一、五ミリバール、雨量は少なかったが風が強く大根占小学校講堂は倒壊寸前となった。

昭四一 集中豪雨で大被害、三日間の連続雨量六八一ミリ、住家全壊一三戸うち町営住宅遊喜之浦団地七戸中四戸全壊（他の三戸も使用不能となった）。

その他

昭一七 池田郵便局開局。

昭二二 大根占簡易裁判所、大根占区検察庁設置さる。

昭二三 自治体警察「大根占警察署」開設。

昭二五 大根占土木事務所開設。

昭二六 自治体警察署、国家警察に移管。

設。

昭二七 鹿屋保健所大根占支所開設。

昭三五 大根占営林署移転新築。

昭三六 笹原線にバス開通。

昭三八 林業改良普及所開設さる。大尾までバス開通。

昭三九 大根占区検察庁新庁舎落成。

旗山神社大鳥居完成、大祭執行。

昭四〇 大根占簡易裁判所新庁舎落成。

昭四四 大根占電報電話局開局、ダイヤル即時通話となる。

農村集団自動電話開通（宿利原交換台設置分）。

昭四五 大根占土木事務所、専売公社葉たばこ取扱所移転新築。

昭四六 法務局新庁舎落成。

昭四七 農村集団自動電話開通（池田交換台設置分）。

財 政

最近 10 年 間 の 決 算 状 況

(単位：千円、%)

歳 入

科 目	昭和39年度		昭和40年度		昭和41年度		昭和42年度		昭和43年度		昭和44年度		昭和45年度		昭和46年度		昭和47年度		昭和48年度(予算)	
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
町 税	26,837	14.7	26,532	11.6	27,756	9.8	31,584	11.3	33,722	10.8	35,996	10.4	39,338	9.6	45,515	8.9	53,577	7.8	53,375	8.2
臨時地方財政交付金	—	—	—	—	2,102	0.7	412	0.1	—	—	—	—	—	—	(課与税)884	0.2	(課与税)4,198	0.6	(予)3,500	0.5
自動車取得税交付金	—	—	—	—	—	—	—	—	1,912	0.6	2,650	0.8	3,031	0.7	2,915	0.6	4,066	0.6	4,000	0.6
地方交付税	73,434	40.2	85,017	37.1	91,904	32.4	108,410	38.8	132,333	42.6	161,633	46.8	207,531	50.5	255,995	50.1	318,562	46.5	343,000	53.0
交通安全対策金	—	—	—	—	—	—	—	—	110	0.0	158	0.0	121	0.0	162	—	341	—	350	0.1
分担金及び負担金	838	0.5	891	0.4	5,173	1.8	4,171	1.5	3,649	1.2	2,570	0.7	3,554	0.9	5,979	1.2	12,238	1.8	3,943	0.6
使用料及び手数料	2,191	1.2	2,331	1.0	2,934	1.0	3,355	1.2	3,706	1.2	3,833	1.1	4,006	1.0	4,268	0.8	4,558	0.6	5,272	0.8
国庫支出金	25,771	14.2	30,885	13.5	43,474	15.3	32,311	11.5	26,973	8.7	29,817	8.6	33,378	8.1	47,558	9.3	71,612	10.5	73,198	11.3
県支出金	11,031	6.1	27,561	12.0	34,301	12.1	5,610	12.7	40,386	13.0	48,673	14.1	35,257	8.6	46,120	9.0	63,942	9.3	25,509	3.9
財産収入	13,134	7.2	14,277	6.2	14,350	5.1	18,040	6.4	13,993	4.5	15,871	4.6	23,899	5.8	13,784	2.7	14,818	2.2	15,266	2.4
寄附金	607	0.3	390	0.2	184	0.1	344	0.1	290	0.1	748	0.2	415	0.1	45	—	350	—	14	—
繰入金	—	—	—	—	—	—	—	—	5,500	1.8	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
繰越金	4,829	2.7	8,552	3.7	7,440	2.6	4,646	1.7	1,580	0.5	3,029	0.9	6,041	1.5	12,067	2.4	18,868	2.8	3,000	0.5
諸収入	4,035	2.2	2,868	1.3	4,306	1.5	5,578	2.0	15,861	5.1	16,811	4.9	15,633	3.8	16,384	3.2	20,751	3.0	28,272	4.4
町 債	19,400	10.7	29,900	13.0	50,100	17.6	35,700	12.7	30,800	9.9	23,900	6.9	38,700	9.4	58,900	11.6	97,900	14.3	89,000	13.7
合 計	182,107	100.0	229,204	100.0	284,024	100.0	280,161	100.0	310,815	100.0	345,689	100.0	410,904	100.0	510,576	100.0	685,781	100.0	647,700	100.0

歳 出

科 目	昭和39年度		昭和40年度		昭和41年度		昭和42年度		昭和43年度		昭和44年度		昭和45年度		昭和46年度		昭和47年度		昭和48年度	
	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比	決算額	構成比
議会費	6,078	3.5	6,514	2.9	7,438	2.7	7,114	2.6	8,519	2.8	9,494	2.8	11,423	2.9	14,686	3.0	16,547	2.5	18,094	2.8
総務費	28,789	16.6	34,560	15.6	36,306	13.0	40,526	14.5	45,394	14.7	54,745	16.1	67,265	16.9	79,529	16.2	86,421	13.0	94,580	14.6
民生費	22,273	12.8	13,744	6.2	16,846	6.0	18,637	6.7	19,880	6.5	23,865	7.0	30,076	7.5	54,982	11.2	65,596	9.9	87,719	13.5
衛生費	2,107	1.2	5,539	2.5	8,707	3.1	6,637	2.4	19,947	6.5	26,645	7.8	27,459	6.9	27,468	5.6	43,935	6.6	33,189	5.1
労働費	10,381	6.0	10,445	4.7	9,624	3.4	10,177	3.7	11,633	3.8	12,572	3.7	15,950	4.0	16,637	3.4	19,313	2.9	20,923	3.2
農林水産業費	22,824	13.2	43,368	19.6	48,099	17.2	52,071	18.6	66,524	21.6	81,391	23.9	60,076	15.1	72,876	14.8	98,301	14.8	69,179	10.7
商工費	292	0.2	930	0.4	459	0.2	737	0.3	471	0.2	677	0.2	1,133	0.3	577	0.1	743	0.1	1,112	0.2
土木費	21,860	12.6	25,782	11.6	27,323	9.8	30,337	10.9	32,162	10.4	39,915	11.8	88,628	22.3	97,788	19.9	160,716	24.2	160,593	24.8
消防費	5,508	3.2	3,789	1.7	4,731	1.7	6,025	2.2	7,296	2.4	5,965	1.8	8,897	2.2	12,629	2.6	11,971	1.8	12,562	1.9
教育費	40,662	23.3	53,257	24.1	74,367	26.6	72,217	25.8	61,179	19.9	40,025	11.8	50,430	12.6	57,790	11.7	99,914	15.0	82,624	12.8
災害復旧費	1,930	1.1	11,397	5.1	27,498	9.8	9,400	3.4	7,225	2.3	19,435	5.7	2,178	0.5	27,360	5.6	24,907	3.8	13,144	2.0
公債費	9,197	5.3	10,439	4.7	12,531	4.5	15,800	5.7	23,476	7.6	21,645	6.4	25,605	6.4	29,270	5.9	36,069	5.4	41,981	6.5
諸支出金	1,654	1.0	2,000	0.9	5,449	2.0	8,903	3.2	4,080	1.3	3,274	1.0	9,717	2.4	116	—	—	—	2,000	0.3
合 計	173,555	100.0	221,764	100.0	279,378	100.0	278,581	100.0	307,786	100.0	339,648	100.0	398,837	100.0	491,708	100.0	664,333	100.0	647,700	100.0
歳入歳出差引残	8,552		7,440		4,646		1,580		3,029		6,049		12,067		18,868		21,348		0	

町制施行後の 議会議員

昭和八年改選

山元徳之助、湯田壮熊、坂元盛香、川越再治、垣内吉次郎、貴島正、笹原伝計佐、川辺盛繁、田貫伸太郎、大山嘉兵衛、前田直吉、遊喜資世、鳥越資則、上之園利右工門、前迫平吉、竜崎

歴 代 正 副 議 長			
歴 代	氏 名	在 職 期 間	
議 長	初 代	宮 里 軍 吉	昭21. ~昭26. 4
	2	本 釜 盛 清	昭26. 5~昭42. 4
	3	川 辺 盛 康	昭42. 5~現 在
副 議 長	初 代	税 所 啓 十	昭21. ~昭22. 4
	2	本 釜 森 助	昭22. 5~昭26. 4
	3	諏訪原 盛 康	昭26. 5~昭38. 4
	4	川 辺 盛 康	昭38. 5~昭42. 4
	5	皆 倉 松 二	昭42. 5~現 在

昭和十二年改選

市蔵、園川兵介、税所佳千彦、飯屋熊計佐、番園浜右工門、平原喜太郎、落河盛吉、黒瀬吉右工門、原ヶ瀬覺左工門、

昭和十七年改選

磯脇四郎次、福岡助次郎、宮里軍吉、前迫平吉、湯田壮熊、本釜清、半下石太吉、岩松周市、馬込一三、桑原盛次郎、税所啓十、番園浜右工門、南重男、脇田達弥、落河盛吉、厚ヶ瀬平蔵、諏訪原森助、笑喜英蔵、山元徳之助、平原喜太郎、大山勝実、鳥越資則、園川兵介、浜崎隼人

昭和十八年

岩松周市 死亡

昭和二十二年改選

原口鶴吉 繰上補充
諏訪原森助、川越再治、桑原盛次郎、貴島三也、永吉一二、神川静夫、中松庄太郎、南重男、本釜清、宮里軍吉、落司吉彦、大山治吉、松元市次、馬込一三、川辺盛康、山元千春、平原喜太郎、黒瀬一志、宮下清吉、湯田トミ、毛下清武、岩下栄造、小石田直治、牧原清治、吉元次郎、右工門、長岡正一、

昭和二十六年改選

諏訪原盛助、皆倉松二、岩下栄造、桑原盛次郎、松元市次、川越再治、馬込一三、黒瀬健郎、祢占十熊、新原虎吉、中松庄太郎、大山治吉、福留平吉、毛下清武、山元千春、垣内秀雄、前園栄、牧原清治、山之内敬吉、本釜清、落司吉彦、神川静夫、川辺盛康、遊喜資能、山元繁徳、長岡正一、

昭和三十年改選

宮園直矢、押領司国雄、桑原盛次郎、祢占十熊、川辺盛康、牧原清治、諏訪原森助、毛下清武

歴 代 三 役			
歴 代	氏 名	在 職 期 間	
町 長	初 代	坂 元 盛 祐	オ5代村長から 明45. 4~昭8. 8
	2	浜 崎 節	昭9. 2~昭18. 10
	3	山 元 徳 夫	昭18. 10~昭21. 2
	4	浜 崎 隼 人	昭21. 3~昭26. 4
	5	宮 里 軍 吉	昭26. 5~昭31. 10
	6	遊 喜 半次郎	昭31. 11~昭35. 10
	7	坂 元 左武郎	昭35. 11~現 在
助 役	初 代	宮 里 軍 吉	昭4. 11~昭8. 10
	2	田 中 猶 矢	昭9. 4~昭17. 4
	3	山 元 徳 夫	昭17. 5~昭18. 9
	4	吉 永 勝 剛	昭18. 10~昭21. 2
	5	原 口 吉 蔵	昭21. 3~昭26. 4
	6	坂 元 左武郎	昭26. 5~昭35. 10
	7	矢 野 清 夫	昭36. 2~昭40. 2
	8	大 西 幸 夫	昭40. 3~現 在
収 入 役	初 代	岩 松 周 市	昭5. 8~昭9. 7
	2	宮 下 仲兵衛	昭9. 8~昭10.
	3	吉 永 勝 剛	昭10. 5~昭18. 10
	4	矢 野 清 助	昭18. 11~昭21. 2
	5	福 園 源 助	昭21. 2~昭30. 5
	6	矢 野 清 二	昭30. 5~昭36. 2
	7	山 下 春 男	昭36. 2~昭48. 3
	8	前 田 親 男	昭48. 5~現 在

(注) 町制施行後の三役

町のあらまし

人口11,134人 世帯数 3,097 (45年国調)

48年8月1日現在人口10,107人(男4,603人、女5,504人)。

推計人口から

産業別就業者数 才一次産業 3,091人(農業、林業、漁業)

才二次産業 579人(鉱業、建設業、製造業) 才三次産業

1,425人(卸売小売業、サービス業、公務、運輸通信等)

面積85.21km²、田畑14.23km²、宅地1.20km²、その他69.78km²

地形 東西約14km、南北約10km、海岸線約9km

町道延長86,768m、県道延長26,400m

国道延長14,000m

学校、小学校児童数1,270人、中学校生徒数875人

瀬戸藤吉、本釜清、前園栄、原田速雄、遊喜資能、半下石三夫、大山治吉、平原喜太郎、長岡正一、黒瀬健郎、落司吉彦、壺崎実志、

昭和三十一年

牧原清治 辞任

補欠選挙で宿利原徳二 当選

昭和三十四年改選

永田清彦、黒瀬健郎、川崎忠男、大山治吉、瀬戸藤吉、落河昭、川辺盛康、垣内秀雄、原田速雄、毛下清武、本釜清、長岡正一、半下石三夫、岩下栄造、前迫文哉、宮園直矢、坂口不二郎、中村三勇士、桑原盛次郎、諏訪原盛助、

昭和三十八年改選

瀬戸藤吉、赤石三矢、福岡国夫、皆倉松二、宮園直矢、岩下栄造、川辺盛康、大山治吉、落河昭、前園栄、川越二郎、前迫文哉、本釜清、押領司国雄、長岡正一

毛下清徳、桑原亨、本釜利夫、中村三勇士、牧原清治、

昭和四十二年改選

赤石三矢、今村利文、落河昭、岩下栄造、皆倉松二、垣内秀雄、川辺盛康、黒瀬健郎、毛下清徳、長岡正一、中迫虎吉、中村三勇士、新原兵助、原田速雄、半下石三夫、前迫文哉、前園栄、牧原崇、宮園直矢、川越二郎、

昭和四十六年改選

原田速雄、落河昭、瀬戸藤吉、宮園直矢、皆倉松二、毛下清徳、中村三勇士、黒瀬健郎、宿利原覚哉、中迫虎吉、川越二郎、毛下栄、赤石三矢、新原兵助、川辺盛康、今村利文、釘田平、宮川正明、



◀ 町制二十周年当時の町中心街

▶ 昭和二十七年頃の市街地
神之浜海岸だけ堤防は完成していた。



◀ 活気に満ちた現在の町中心街

▶ 現在の市街地



写真で見た町勢のつづりかわり



▲ 昭和26年頃の城ヶ崎

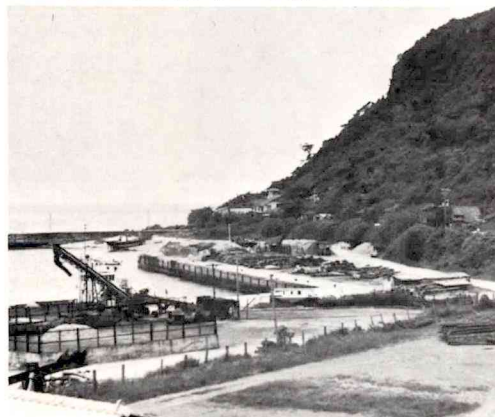


▲ 昭和26年ルス台風通過直後の皆倉



▲ 海岸堤ができる以前の神川、鳥浜海岸一帯

▼ 現在の城ヶ崎（港も整備された。）



▼ 現在の皆倉



▼ 国道バイパスの完成で一変した現在の神川
海岸一帯



大根占町町民歌

作詞 小川 瑠美子
作曲 番園 済治

一、あ、この風に この花に

明日へふくらむ 夢がある

ブーゲンビリアの 色燃えて

生きるしるしを よろこびを

たたえる町よ 大根占

二、あ、この丘に この土に

恵み豊かな 幸がある

みかんの山も 葉たばこも

みどり日に日に つや増して

あふれる町よ 大根占

三、あ、この川に この水に

人の和がある 意気がある

神々の流れ いや清く

厚ケ瀬滝に立つ虹の

輝く町よ 大根占

大根占小唄

作詞 大根占町教育委員会
作曲 三界 実義

一、そよる春風 城ヶ崎みなと

祭りばやしに 浮かれて踊りや

踊る足なみ そろえてみたら

チラリホラリと 夢ごこち

ヤンレツサ よいとこ大根占

二、こがね波うつ おいらが畑

夢じゃないぞえ 宝の山も

広い世界を煙にまいて

生めよ ふやせの合いことば

くりかえし

三、月はまんまる うぶすなさまに

願をかけましょ わたしとあなた

燃ゆる想いを 火なわにつけて

柱めぐって 夜をふかす

くりかえし

四、恋の神の浜 通いの船に

幾度よせたか せつない想い

暮れの雪空 むかえのまちに

湯気にしっとり 灯がにじむ

くりかえし

(レコードは役場総務課文書広報係に
あります。一枚四百円)